

● 本日のテーマ「ひんやりする話」

実施日：2022年7月24日

1※「面白南極料理人」

西村淳／著 2004年 新潮社 【297.9】

「南極料理人の使いきりレシピ」

西村淳／著 2011年 光文社 【596】

「南極大陸完全旅行ガイド」

2016年 ダイヤモンド・ビッグ社 【297.9】

みなさん、知っていますか？南極には探検家だけが住むはずなのに場所ではないことを、ひんやりを乗り越えて極寒の世界の南極大陸。芸術的で巨大な氷山、ペンギンやアザラシなど、視覚的にひんやりさせてくれる本です。



2「ひんやり氷の本」

前野紀一／監修 2013年 池田書店 【451.6】

夏休みの自由研究にも役立つ本です。

氷を使った料理「冷やし」「カス」

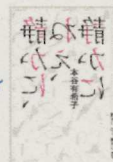
「ビシソワーズ」も美味しい！「おいしい氷の作り方」も載っています！



3「静かに、ねえ、静かに」

本谷有希子／著 2018年 講談社 【Nモ】

どんな展開になっていくのか？目が離せず、不気味さを感じながらも最後まで読まずにはいられない、そんな魅力を持つ傑作小説だと思いませんか。



4「アイスクリームのあゆみ」

2016年 日本アイスクリーム協会 【588.3】

アイスクリームの出会いから、製造方法、ヨーケースの変遷、各メーカーの主力商品など、日本のアイスのあゆみがまとめられた本です。みなさんの好きなアイスはどれですか？

5「死のドレスを花嫁に」

ピエール・ルメートル／著 2015年 文藝春秋 【S953ル】

主人公の人生への目立たず、しかもゆっくり進んでいく殺人の干渉の仕方にゾワゾワする一冊です。殺人の悪意とその執念が恐ろしい！！



6「これだけは見ておきたい世界のお墓 199 選」

ローレン・ローズ／著 2021年 国書刊行会 【629.8】

お墓というと、薄暗くてひんやりとしたイメージですが、この本に掲載されているお墓は、昼間に撮った写真なので公園かテーマパークのようです。この本で紹介されている高野山奥の院には、行かない方がいいが不思議と怖い感じはなく、むしろ清々しいところでした。



7※「ねないこだれだ」

せなけいこ／さく・え 1978年 福音館書店 【EFネ】

ねない子ともが、おどろおどろしい、無理やりおどろおどろしい世界に落ちていくのがこわい。大人でもこわいの、子どもはもっとこわいかも。



8「海と森の標本函」

結城伸子／著 2014年 グラフィック社 【407】

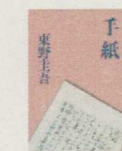
「標本函」ということばには、静かで、薄暗くてひんやりとしたイメージが浮かんできませんか？この本は、海や森で採集したもの、それを愛でて集めようというものです。



9※「手紙」

東野圭吾／著 2006年 文藝春秋 【SNヒ】

「つみをおかき」に読んでほしい本でした。



※は、投稿していただいた本です。